

第 24 回白馬村地域公共交通会議 資料

日 時：令和元年（2019年）11月22日（金）10：00～

場 所：白馬村役場

令和元年度 ナイトシャトルバス「元気号」運行計画（案）

令和元年 11 月

白馬村

令和元年度ナイトシャトルバス「元気号」運行計画（案） 目次

I. 白馬村地域公共交通・観光交通システム検討委員会の開催	1
II. 運行計画（案）	3
III. 運行内容の比較	4
IV. 利用促進計画（案）	5
V. 運行収支（案）	6

I. 白馬村地域公共交通・観光交通システム検討委員会の開催

1. 設置目的

白馬村地域公共交通会議において協議する事項のうち、運行計画に関する調査検討を行う。

2. 掌握事項

白馬村が実施する住民輸送サービス等の運行計画の策定について検討し、その結果を白馬村地域公共交通会議に報告する。

3. 委員構成（18名以内）

白馬村地域公共交通・観光交通システム検討委員会 委員名簿

◎委員長

選出区分	所属・職名	氏名
住民代表	白馬村地域公共交通会議 委員（一般公募）	速水 政文
住民代表	白馬村地域公共交通会議 委員（一般公募）	田代 雅子
住民代表	八方尾根観光協会 協会長	丸山 和博
住民代表	和田野区 区長	松澤 雅世
住民代表	エコーランド区 区長	村越 久喜
住民代表	白馬五竜観光協会 事務局	佐藤 文生
住民代表	岩岳観光協会 副会長	中村 堅
事業者	アルピコ交通株式会社白馬営業所 所長	津山 健次
事業者	有限会社白馬交通 代表取締役	遠藤 孝
観光団体	一般社団法人白馬村観光局 事務局長	福島洋次郎
観光団体	一般社団法人白馬村観光局 インバウンド専門委員長	モラード・ケビン
観光団体	白馬ツーリズム	塩島 真一
行政機関	白馬村役場 観光課長	◎ 太田 雄介

4. 会議の開催

(1) 第1回白馬村地域公共交通・観光交通システム検討委員会

日時：令和元年10月1日（火）午後1時30分から2時15分まで

場所：白馬村役場2階 201・202会議室

出席者：10名（委員：8名、事務局2名）

内容：①前年度2018-19シーズン ナイトシャトルバス「元気号」の運行実績について
②今年度2019-20シーズン ナイトシャトルバス「元気号」の運行方針(案)について

会議報告

①前年度2018-19シーズン ナイトシャトルバス「元気号」の運行実績について

運行状況及び実績について白馬村より説明した。

・利用者数は12,737人（前年比3,095人増、+25.1%）となった。外国人観光客の滞在期間が長期化していること等を考慮し、運行導入以後初めて3月（10日）まで期間を延長した。

- ・乗車人数のうち外国人の占める割合は、全体の95.95%となった
- ・村内中心部を巡回するラインと比較すると利用者が少ないことが課題とされていたスキー場エリアを結ぶライン（五竜ライン、岩岳ライン）については、前年度より利用者数の伸び率は増加傾向にあり、今シーズン以降もある程度の伸び率増加が期待できる見込み

②今年度2019-20シーズン ナイトシャトルバス「元気号」の運行方針(案)について
運行方針(案)及び予定製作物について白馬村より説明し、委員からの意見を求めた。

【決定事項】

※運行ルート(案)、時刻表(案)などの詳細は別添参照

- ・運行期間は、12月21日(土)から3月8日(日)までの79日間
- ・運行ルートは、前年同様の4ルートを基本とし、ハブとなる停留所の待ち時間を短縮するため該当する路線の便数拡充を図る(和田野～八方～エコーランド区間)
 - 拡充路線(北咲花⇄セブンイレブンみそら野区間)は、逆方向から相互に乗り入れる体制へ。
 - また、ルート表示を一色表記(レッド)に統一し、利用者がわかりやすい工夫を図る。
 - 五竜ライン(グリーンライン)、岩岳ライン(ブルーライン)を単独ラインでルート設定。レッドラインは上り便、下り便体制となるため路線(ライン表記)自体は3路線となる。
 - ハブ及び主要バス停留所の発着本数の比較
 - ①咲花ゲレンデ入口(昨年度21本→今年度25本)
 - ②八方バスターミナル(同21本→同25本)
 - ③白馬ベースキャンプ(同13本→同14本)
 - ④JR白馬駅(同11本→同11本)
 - ⑤JR神城駅(同4本→同6本)
- ・停留所の名称を変更する箇所：3か所(①北咲花→アベスト八方、②エコーランドバスターミナル→白馬ベースキャンプ、③アップルランド前→デリシア前)

【その他】

- ・「元気号」のネーミングについて、次年度から「白馬シャトル」へ名称変更を予定(グリーン期のバスとネーミングは統一する方向で調整中)

II. 運行計画（案）

1. 運行目的

項目	運行計画の策定方針
(1) 運行目的	居住エリア又は宿泊エリアと飲食店及び商業施設を結ぶシャトルバス運行事業を実施することで、住民及び観光客の消費行動の促進を図り、もって村内商業地域の活性化に寄与することを目的とする。なお、運行計画の策定にあたっては、指摘事項を改善するとともに効率性を重視しながら、利用者の快適性と利便性の向上を図ることとする。

2. 運行方法

項目	運行計画の策定方針
(1) 事業主体	白馬村
(2) 運行主体	一般乗合旅客自動車運送事業者
(3) 運行方法	宿泊エリアと一般商店、飲食店、公共施設及び駅等を結ぶ定時定路線型のバスを運行する。

3. サービスレベル

項目	運行計画の策定方針
(1) 利用対象者	住民及び観光客を対象とする。
(2) 運行ルート	<p>■レッドライン①（主な経由地） アバステ八方（始点）～咲花ゲレンデ入口～ラ・ネージュ～岳都～白馬東急ホテル～樅の木ホテル～八方ゴンドラ～ソール白馬前～八方アルプス広場～白馬八方バスターミナル～瑞穂交差点～呑者屋～白馬ベースキャンプ～エーランドロータリー～フェリーパブ～セブンイレブンみそら野（終点）</p> <p>■レッドライン②（主な経由地） セブンイレブンみそら野（始点）～フェリーパブ～エーランドロータリー～白馬ベースキャンプ～呑者屋～瑞穂交差点～白馬八方バスターミナル～八方アルプス広場～ソール白馬前～八方ゴンドラ～樅の木ホテル～白馬東急ホテル～岳都～ラ・ネージュ～咲花ゲレンデ入口～アバステ八方（終点）</p> <p>■ブルーライン（主な経由地） アバステ八方（始点）～咲花ゲレンデ入口～ラ・ネージュ～岳都～白馬東急ホテル～樅の木ホテル～八方ゴンドラ～ソール白馬前～八方アルプス広場～白馬八方バスターミナル～白馬飯店～JR 白馬駅～テリヤ前～セブンイレブン岩岳～庄屋まるはち～切久保公民館～岩岳ゴンドラ前（終点）</p> <p>■グリーンライン（主な経由地） 飯森ゲレンデ下（始点）～イスカプラザ～クック前～白馬の森～JR 神城駅～桂花～ザ・ビッグ白馬店～ききょう屋～JR 白馬駅～白馬飯店～白馬八方バスターミナル～八方アルプス広場～ソール白馬前～八方ゴンドラ～樅の木ホテル～白馬東急ホテル～岳都～ラ・ネージュ～咲花ゲレンデ入口～アバステ八方（終点）</p>
(3) 運行期間	<p>■全線 令和元年12月21日（土）～令和2年3月8日（日）までの毎日、79日間</p>

(4)運行便数	■レッドライン①：4便、■レッドライン②：4便、■ブルーライン：3便 ■グリーンライン：3便
(5)運行時間	■レッドライン①、②、ブルーライン、グリーンライン 17:30～22:49
(6)利用方法	■レッドライン①、②、ブルーライン、グリーンライン 現金による支払で乗車する方法、回数券を購入して乗車する方法

4. 運賃の設定

項目	運行計画の策定方針
(1)運賃	■レッドライン①、②、ブルーライン、グリーンライン 300円（大人・小児一律1回）、小学生未満無料

5. 車両・設備

項目	運行計画の策定方針
(1)車両数	常備車両：4台、予備車両：1台
(2)車両の仕様	小型のバス（中型自動車マイクロバス）
(3)車両の装飾	マグネットシート：大1枚・小1枚×両サイド×4台分 電光板：1枚×4台分

Ⅲ. 運行内容の比較

項目	2017-18（平成30年度）	2019-20（令和元年度）	変更点
運行期間	H30.12.22-H31.3.10（79日間）	R1.12.21-R2.3.8（79日間）	変更なし
停留所	北咲花外32停留所	アストハ方外32停留所	変更なし
運行時間	ブルーライン 18:00-21:49 3便	レッドライン① 17:50-22:29 4便	1便増
運行便数	レッドライン 18:15-21:39 3便	レッドライン② 17:40-21:19 4便	1便増
	五竜ライン 17:39-21:02 2往復	グリーンライン 17:30-22:49 3便	専用ラインへ変更
	岩岳ライン 17:45-22:52 2.5往復	ブルーライン 17:30-22:04 3便	専用ラインへ変更
利用料	300円（大人・小児一律1回） 未就学児童（6歳未満）無料	300円（大人・小児一律1回） 未就学児童（6歳未満）無料	変更なし
回数券	1,000円（4枚綴り）	1,000円（4枚綴り）	変更なし
利用方法	現金乗車方法及び回数券購入乗車方法の併用	現金乗車方法及び回数券購入乗車方法の併用	変更なし
車両装飾	マグネットシート：大2枚、小2枚、（小2枚） 電光板：2台（枚）	マグネットシート：大2枚、小2枚、 電光板：4枚	・変更なし ・2枚増
その他	・チラシ及び停留所看板に村内タクシー会社の社名及び電話番号を表記	・チラシ及び停留所看板に村内タクシー会社の社名及び電話番号を表記	変更なし

IV. 利用促進計画（案）

1. エリア内での情報発信

- (1) チラシによる周知
- (2) ホームページにおける周知
- (3) 旅行会社への情報提供
- (4) 新聞折り込みによる周知
- (5) ケーブルテレビによる周知

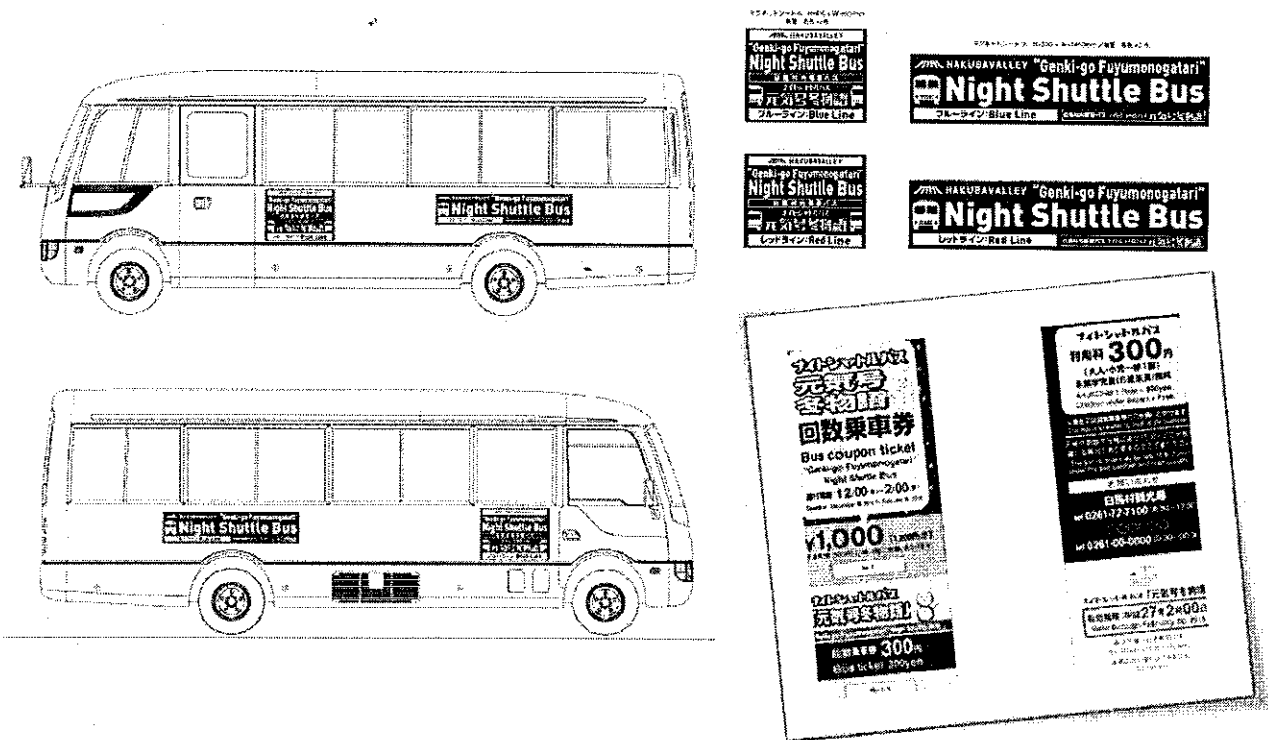
2. エリア外への情報発信

- (1) 県内メディアへのプレスリリース
- (2) 長野県観光情報センターにおける定例記者会見及びメディアへのプレスリリース

3. その他

- (1) ウィンターシーズンイベントにおける周知
- (2) 村内関係団体及び事業者等への情報の提供と発信依頼

〈参考1〉 バス装飾及び回数乗車券のイメージ図



* 回数乗車券は英語表記をメイン（日本語はサブ表記）

〈参考2〉 回数乗車券取扱所（5か所）

・白馬五竜観光協会、北アルプス総合案内所、八方インフォメーションセンター、白馬村観光局、エイブル白馬
竜エスカルプラザ

V. ナイトシャトルバス「元気号」運行収支(案)

【支出】

(単位:円)

区分	平成30年度 (前年度実績)	令和元年度 (計画)	比較増減	摘要
1.バス運行経費	14,333,760	14,599,200	265,440	
運行日数(日)	79	79	0	平30:12/22(sat)~3/10(sun) 令01:12/21(sat)~3/8(sun)
2.時刻表チラシ作成費	280,800	291,500	10,700	ポケットダブルチラシ(20,000枚)
3.バスチケット作成費	145,800	151,800	6,000	バス回数乗車券(1,000部)
4.バス停看板作成費	157,248	220,000	62,752	
5.バス・マグネットシール作成費	0	132,000	132,000	
6.その他諸経費	150,000	0	△ 150,000	白馬エッセンスシャルガイドガイドブック 負担金
合計	15,067,608	15,262,500	194,892	

【収入】

(単位:円)

区分	平成30年度 (前年度実績)	令和元年度 (計画)	比較増減	摘要
利用者数(人)	13,275	14,600	1,325	
1.運賃収入	3,947,400	4,380,000	432,600	運賃単価:300円
2.チケット販売収入	35,000	220,000	185,000	
3.広告料収入	0	0	0	
合計	3,982,400	4,600,000	617,600	

【差引】

(単位:円)

区分	平成30年度 (前年度実績)	令和元年度 (計画)	比較増減	摘要
1.支出	15,067,608	15,262,500	194,892	
2.収入	3,982,400	4,600,000	617,600	
差引差額	11,085,208	10,662,500	△ 422,708	